

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 176人

② 数学 176人

③ 理科 173人

#### 5 留意事項

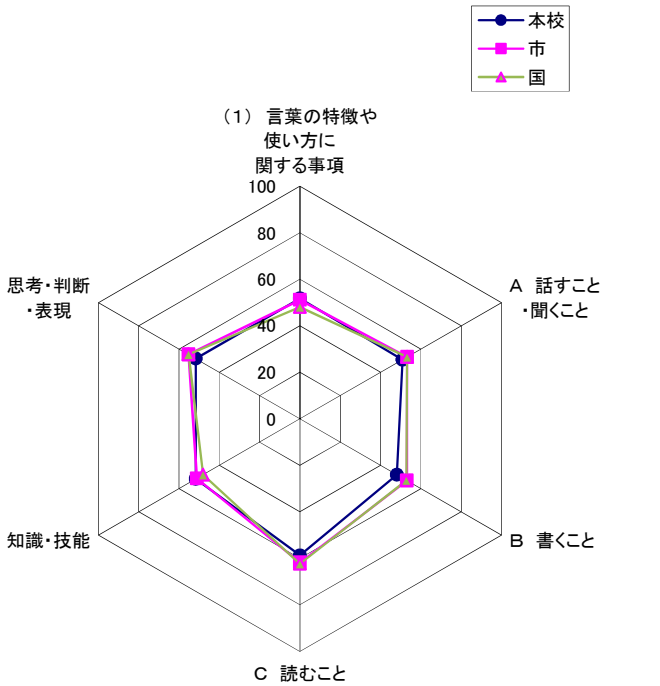
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	51.7	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	50.9	53.2	53.2
	B 書くこと	48.1	53.1	52.8
	C 読むこと	58.7	61.8	62.3
観点	知識・技能	51.7	51.1	48.1
	思考・判断・表現	51.7	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

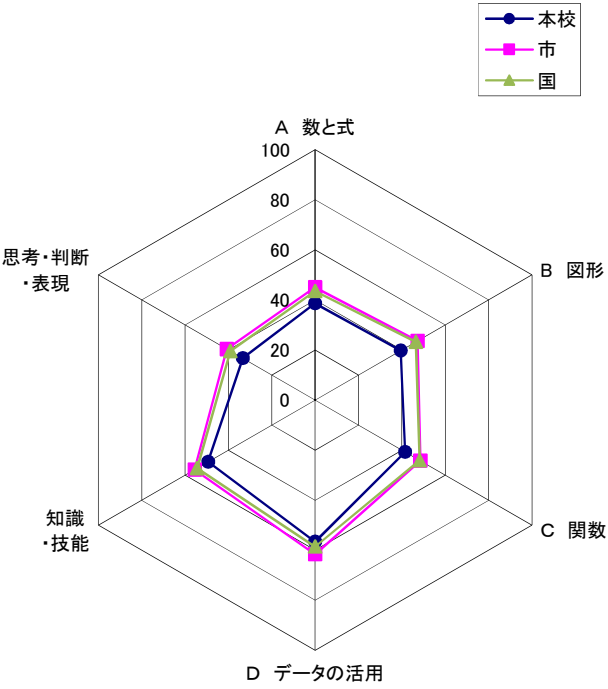
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率が、市平均より0.6ポイント、国の平均より3.6ポイント高く、例年に比べて市・国より上回る数値となった。 ○語句の意味として「適切なものを選択する」問題では、全国正答率よりも7.8ポイント、市正答率よりも3.0ポイントと大きく上回った。 ●「変換した漢字として適切なものを選択する」問題において、全国正答率より0.5ポイント、市正答率より1.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・字源や成り立ちを学んだり、部首について詳しく調べたりするなど、漢字の「意味」を深く掘り下げられるよう、学習課題を工夫する。 ・試験問題などを工夫して出題し、類義語・対義語をセットで学べるよう促す。それぞれの言葉が持つ微妙な違いや使い分けを理解できる力を育む。 ・学んだ語彙を意識的に使って、学校全体で実施している「書くことキャンペーン」の日記・記録のような文章づくりの際などに生かすよう声かけをする。
(2) 情報の扱い方に関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が、市の平均・国の平均ともに2.3ポイント下回った。 ●「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、全国正答率より4ポイント、市正答率よりも3.9ポイントと大きく下回った。	・教科書などの文章において、登場人物の役割を演じてもらい、言葉の重みや、言葉に表れていない非言語情報の重要性を体感させる機会を設定する。 ・問題文を詳しく読み取り、発言の意図を多角的に分析する機会を設定する。正解だけではなく、不正解の解答にも着目させ、発言者の意図を読み取るための判断基準を明確にさせる。
B 書くこと	平均正答率が、市の平均より5ポイント、国の平均からは4.7ポイント下回った。 ○「ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、全国正答率よりも低くはなるものの、0.8ポイントとわずかな差にとどまった。 ●「ちらしの読み手に向け、工夫について伝える文章を書く」問題では、全国正答率が31.0%に対し、本校は27.8%と3.2ポイント下回った。また市正答率と比べると、2.4ポイント下回った。	・学校として取り組んでいる「書くことキャンペーン」を活用して日常的に文章を書かせ、読み取るだけでなく、アウトプットするスキルを向上させる。いきなり書かせるのではなく、型を提示し、それに沿って書く練習を重ねさせる。 ・同じ内容でも、様々な表現があることを授業内で折に触れて教え、生徒の語彙力を一層高めていく。
C 読むこと	平均正答率が、市の平均より3.1ポイント、国の平均からは3.6ポイント下回った。 ●「物語の始めに問かけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、全国正答率より7.8ポイント、市正答率よりも6.7ポイントと大きく下回った。	・長文読解の授業の際、「この言葉を読んだとき、自分はどうか感じた？」などと発問を工夫し、生徒が文章を客観的に分析するだけでなく、一読者として読んで、自身の心の動きをよく観察できるよう働きかける。 ・複数の文章の冒頭文を比較し、共通点や違いを見つかる課題に取り組ませる。違いを分析させ、導入部が持つ様々な役割を幅広く学べるよう工夫する。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	38.6	45.0	43.5
	B 図形	39.5	47.2	46.5
	C 関数	41.5	48.5	48.2
	D データの活用	56.6	61.6	58.6
観点	知識・技能	49.4	55.6	54.4
	思考・判断・表現	33.4	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率が市より6.4ポイント下回り、国より4.9ポイント下回った。 ●「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」問題は、全国正答率より1.3ポイント、市正答率より1.2ポイント下回り、正答率が24.4%ですべての問題の中で最も低く、無回答率は34.7%であった。	・1・2年生で学習した既習事項を復習し、それを3年生の学習内容に活用できるようにする。 ・計算の仕方を正しく理解し、解き方が定着するように、計画的に演習問題を行い、反復練習を取り入れていく。
B 図形	平均正答率が市より7.7ポイント下回り、国より7.0ポイント下回った。 ●「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」問題では、全国正答率より5.2ポイント、市正答率より5.8ポイント下回り、正答率が27.8%、無解答率も35.8%であった。 ●「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する」問題では、問題形式が選択式であったが正答率が約30%と低かった。	・説明や証明の問題では、無解答の割合が高いので、まず、穴埋めの問題形式で証明の形を身に付けさせ、なぜそうなるのかを質問したり、教え合ったりするような少人数でのグループ活動を取り入れ、理解を深めさせる。 ・ICT機器を効果的に活用し、多様な考えを共有することで、成り立つ事象を発見する力を養う。
C 関数	平均正答率が市より7.0ポイント、国より6.7ポイント下回った。 ●「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 $x$ の増加量に対する $y$ の増加量を求める」問題では、全国正答率より7.0ポイント、市正答率より5.4ポイント下回った。 ●「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題では、無解答率が40.3%とすべての問題の中で最も高かった。	・変化の割合や増加量の意味を、身近な生活場面に即した事象と関連付けて説明し、生徒が理解しやすい形で知識の定着を図る。 ・式・表・グラフを相互に関連付けて考え、比例・反比例・一次関数のそれぞれの特徴を比較しながら捉えることで、理解を深めさせる。
D データの活用	平均正答率が市より5.0ポイント、国より2.0ポイント下回った。 ○「相対度数の意味を理解しているか」の問題で、国より7.5ポイント上回っていた。 ●「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題では、全国正答率より11.6ポイント、市正答率より12.0ポイント下回った。	・実生活でのデータを用いながら、度数や相対度数の意味を考えさせ、理解を深めさせる。 ・平均値・中央値・最頻値などの代表値や、四分位数・四分位範囲などの箱ひげ図について、それぞれの意味や求め方を、授業の中で繰り返し確認し、確実な定着を図る。

## 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生が間違いを分かるまで教えてくれる」と思う生徒が91.4%(全国比+7.6pt)と非常に多く、安心して学べる雰囲気が形成されている。今後も個に応じた丁寧な指導を継続する。

○ICTの活用に関する質問では、「文章作成ができる」の肯定的な回答が91.4%(全国比+7.8pt)、「プレゼン資料を作成できる」の肯定的な回答が85.7%(全国比+9.1pt)、「情報整理ができる」の肯定的な回答が72.4%(全国比+9.1pt)と、いずれも全国平均を大きく上回っており、ICTスキルが着実に育っている。今後は活用の質をさらに高め、発信・表現の場を意図的に設けていく。

○「学習を振り返り、次に生かしている」に肯定的な回答をした生徒は82.8%(全国比+9.4pt)であり、学習の定着と継続につながっている。今後も振り返り活動を通して、学びを深める授業を目指す。

○「学んだことを生活や次の学習に生かしている」と回答した生徒が79.3%(全国比+4.5pt)であり、日常生活や他教科との関連を意識して学んでいる生徒が多い。今後も「実感を伴った学び」を意識し、学習の意味づけを重視する授業づくりを進める。

○「学校が楽しいと思う」と回答した生徒が90.8%(全国平均+4.7pt)であり、生徒が学校生活に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。人間関係や行事・活動への参加意欲が高く、温かな学級づくりが進んでいる。

○「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい」と回答した生徒は86.7%(全国平均+11.4pt)と全国平均を大きく上回っている。

●「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒は63.2%(全国平均-4.3pt)であった。キャリア教育を充実させ、自己理解や将来像の明確化を図ることで、夢や目標をもつことの意義について理解を深めさせる。

●「自分にはよいところがあると思う」と回答した生徒は82.8%(全国平均-3.4pt)であった。生徒のがんばりや長所を認め合う場を日常的に設け、自己肯定感のさらなる育成に努める。

●「新聞を読むことがある」と回答した生徒は12.6%(全国平均-0.9pt)であった。肯定的回答は2割未満である。社会とのつながりや情報リテラシーを高めるため、新聞記事を題材にした授業を行ったり、朝の会や帰りの会で新聞の話題を取り上げたりするなど、新聞と触れ合う機会を増やす。

●平日の学習時間が「1時間未満」の生徒は30.5%(全国平均-7.6pt)と全国を下回っているが、依然としておよそ3人に1人が家庭学習時間を十分に確保できていない実態がある。休日の学習時間でも「2時間未満」が62.6%(全国平均-2.3pt)と過半数を占め、学習時間の確保が不十分である。

## 宇都宮市立雀宮中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・宇都宮モデル(「はっきり」「すっきり」)を軸とした授業の実施 ・振り返り活動の充実	・生徒が、授業の最初と最後に自分の学びを振り返る時間を設定する。(ステップアップタイム) ・教師は、ステップアップタイムと宇都宮モデル(「はっきり」「じっくり」「すっきり」)を軸とした授業を行う。	・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付く」(88.5%)「学習した内容について分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」(82.8%)「授業で学んだことを、次の学習や生活に結びつけて考えたり生かしたりする」(79.3%)の質問では8割前後の生徒が肯定的な回答をしている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・3教科とも思考・判断・表現を評価する問題で、正答率が低く、無解答率が高くなる傾向が見られた。特に、記述式の解答形式でその傾向が顕著であった。このことから、知識を活用し、自分の考えを文章や短答で表現することが課題であると考えられる。	・書くことを軸にした振り返り活動の実施。 ・「書くことキャンペーン」の実施	・各教科で思考力、判断力、表現力等の育成の場面において、自分の考えを、根拠を明確にして文章で表現できるように、指導と評価の一体化に向けた充実を図る。 ・行事などの取組の目標と取組の様子などを段階的に文章で記入させ、文の組み立て方を身に付ける活動を行う。